令和４年度　栃木県立矢板東高等学校定時制課程　学校評価シート

教育目標　学ぶ　チャレンジ　夢実現

本年度の重点目標
1　学習指導の強化…基礎基本の定着、学び直しの支援
2　生徒指導の充実…規律ある生活、基本的生活習慣の確立
3　進路指導の改善…進路目標の明確化と職業観・勤労観の育成

達成度
A　ほぼ達成（8 割以上）
B　概ね達成（6 割以上）
C　変化の兆し（3 割以上）
D　不十分（3 割未満）

学　校　自　己　評　価

現状と学校評価実施計画					達成状況と改善策		
No	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【学習指導】 ・生徒は、落ち着いた環境の中で、授業や学校行事に積極的に取り組んでいる。しかし、基礎学力や思考力・表現力、学習意欲の面での課題が指摘されており、より学ぶ楽しさや学ぶ意義を実感させ、実感の伴った理解が得られる授業づくりが求められている。	(1)基礎学力の定着	①個に応じた指導ができるように習熟度別授業をできるだけ取り入れ、授業を大切にし、個に応じた細かな指導を通して学力の定着を図る。	・少人数指導等の授業工夫や授業アンケートの分析等を通して授業改善に努める。	・生徒アンケート「習熟度別学習は、自分に合っている」肯定的な意見は、R2:80%、R3:90.9%、R4:94.4%であり、「マイスタディは、自分の学力を伸ばす良い機会である」肯定的な意見は、R2:72%、R3:86.4%、R4:88.9%であり、両項目とも増加傾向で、生徒への定着が計り知れる。	A	・今後一層、真に一人一人に応じた指導と確かな学力の向上を図るために、習熟度別指導を効果的に進めることが必要である。 ・今後も、各学年の段階で生徒が何を習得すべきか見直しを継続しながら、指導に当たる。
			②定期的・継続的に漢字テストとマイスタディの事前・事後指導の実施と時間ごとに小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。	・小テスト、事前・事後指導の実施状況と生徒アンケート結果。			
		(2)教員の授業力の向上	①ICT 機器や視聴覚教材を活用するなど、魅力ある授業、わかりやすい授業の実践を目指す。	・参観授業を計画的に実施し、ICT 機器の活用や技術向上をねらいとした授業の実践。	・ICT 機器を活用した授業の頻度は増えており、「ほぼ毎日活用」と回答した教員は、前年度比で約３割増加した。 ・公開授業週間を年２回実施することができ、授業公開による「緊張感」が、学校・教員・生徒に変化をもたらしている。	B	・学校教育活動全般におけるICT 活用実践を整理するとともに、実践事例に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組む。 ・学習成果の把握・評価に関するメリットを整理する。
			②教員間の校内公開授業の実施と公開授業の参観率の向上を図る。	・公開授業等を利用し、教員相互に学び会う機会を持てたか。			
2	【生徒指導】 ・まじめで優しい生徒が多く穏やかな学校生活を送っている。しかし、健康面や就労等の影響で欠席が続く生徒がいることから、健康的な生活の実践や自己有用感を高める指導が求められている。	(1)居がいのある学校づくりの構築	①生徒の個々の状況に応じた声かけを継続し、生徒理解を深める。	・定期面談、SC 面談に加え、登下校指導、校内外巡回時等達成状況。	・定期面談に加え、必要に応じた面談を実施すると共に、校内外巡回を徹底し、生徒の安心安全な学校生活を確保した。 ・教育活動全般を通して積極的な声かけを行い、学校生活に対する意識向上に努めた。 ・生徒アンケートの結果から生徒指導関係講話に対する意識低下が見られた。	B	・生徒たちの声に耳を傾け、迅速な対応が適宜取れるよう、職員間の情報共有、協力体制の更なる強化を図る ・生徒指導各種行事の見直しを行い、生徒にとって有意義な行事へと改善を図る。
			②生徒の学校生活充実のために、授業、課外活動等教育活動全般を通して積極的参加を推奨し、生徒の自主的実践的態度を育てる。	・校内の諸教育活動における生徒の充実度及び達成状況。			
		(2)基本的生活習慣の確立	①皆勤及び精勤を目指すはたらきかけを実施する。	・欠席・遅刻・早退数の減少（昨年度比）。	・１月末までの出席率は 81.1%（昨年 82.9%）、生徒アンケートでも欠席、遅刻、早退に対する意識の低下傾向が見られた。 ・欠席や早退時等の保護者とのスムーズな連絡、相談を徹底することができた。	B	・生徒の状況把握に努めながら、出席、遅刻、早退等の意識向上に向けての働きかけと、魅力ある学校生活づくりに努める。
			②生徒並びに保護者へ寄り添い、報告・連絡・相談を徹底する。	・きめ細かな双方向の連絡の実施状況。			
3	【進路指導】 ・職業観・勤労観が多様で進路決定時期に決断を先送りする生徒が多い。 ・自己理解の不足、奨学金制度の未知等により、進路目標を描く術が限られてしまう生徒も一定数在る。	(1)職業観の育成・進路意識の高揚	①進路関係の行事や、進路情報の提供等を通して、職業観の育成、進路意識の高揚をはかる。	・各行事の生徒作文での感想や、生徒・保護者アンケートにおける進路に関する項目の結果。	・進路指導関係のアンケートにおける肯定的な意見の割合は、生徒 72.2%、保護者 92.9%であった。 ・１月の勤務先調査の結果、就労率は 50.0%であった。 ・生徒アンケート「働くことの意味を理解」肯定的な意見の割合は 94.4%であった。	B	・アンケートで進路に関する項目は概ね良好であった。引き続き職業観の育成を図るとともに、進路関係の情報については、保護者にも積極的に提供し、家庭も含めた進路意識の高揚に努めたい。
			②進路や勤務先等の調査を実施するとともに、昼間の時間を有効活用するよう働きかけ、働くことの意味を考えさせる。	・勤務先調査の結果で就労率 70%以上。 ・職業観に関する生徒アンケート結果。			
		(2)自己理解の深化	①ＬＨＲや総合的な探究の時間等における取組や、適性検査の結果等を活用し、多面的に自己理解を深めさせる。	・職業観に関する生徒アンケート結果。 ・進路希望調査における未定者の減少。	・進路希望調査における希望職種未定者の数は４月末 10 人、９月末 13 人、１月末 11 人であった。	B	・今後も生徒が自己理解を深められるように、企業見学等の進路関係行事の充実を図る。

学校関係者評価

実施日　令和５年２月１７日

学校関係者からの評価・意見等

・現状把握が十分にできている。また、次年度への課題や改善策が具体的に示されているので、成果が期待できる。取組の期限などを決めるとより効果的である。
・アンケートの結果から生徒の自己肯定感が低いことが推察できる。生徒の自己肯定感を高めるためには、学校の取組だけでなく、家庭内でも自己肯定感を高める取組が必要である。家庭での会話啓発など改善の余地がある。
・学校教育活動について、保護者の理解が深まるように工夫する必要がある。ホームページの閲覧にも限界があるのではないか。配付資料等による指導を徹底するなど家庭への情報提供に努めること、また、資料の表現などについて、わかりやすい内容にすること。
・校内の生徒数が少なく、他校との交流が限られる状況であれば、社会に出た際のコミュニケーションスキルの向上に取り組んでほしい。
・卒業した時点の就職先、企業等から、また別の企業等へ再就職する生徒がいる。再就職する生徒がいることを理解した上で、指導を行ってほしい。